

採 撫 餘 録 (其一)

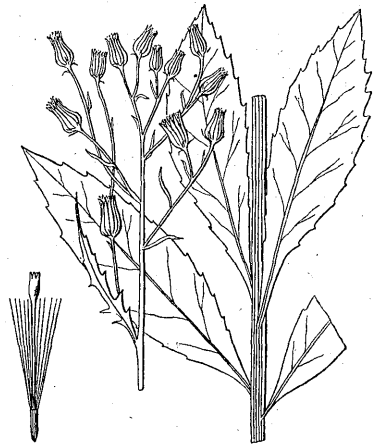
久 内 清 孝

K. HISAUTI: Botanical Notes (I)

1) 丹澤山ノ「フロラ」ニ追加スベキ植物

本年9月余ハ東京科學博物館ノ採集會ニ參加シテ、相州足柄上郡玄倉ヨリ秦野峠ヲ過ギ中津川ノ上流杉澤ニ出デ、更ニ宇津茂、三廻部ヲ經テ小田急線ノ澁澤ニ出タ。此ノ採集行中、玄倉ノ東方約 1,000 米ノ地點デアル玄倉川支流ノ澤デ見馴レヌーキク科植物ヲ奥山春季氏ガ見出シ、亞イデ余モ之ヲ得タ。マタ更ニ中津川上流杉澤堰堤ノ上ニ當ル稲郷ノ澤デ余ガ一本ヲ得タ。トコロガ此草ハ私ノ記憶ニナイ草デドウニモ判斷シ兼ねタガ、然シ外來品ノ疑モアリ、且ツ花ノ構造上カラ見テ小笠原ニアルたけださうニ似テ居ルノデ BRITTON & BROWN ノ北米及加奈陀植物志第3卷ヲ見タトコロ、夫レガ *Erechtites hieracifolia* (L.) RAF. デアルコトガ判リ、既ニ植物分類地理第 III 卷デ北村四郎氏ガ鈴木釘次郎氏ガ三河ノ段戸山デ採ラレタ標本ニ基キ、だんど (段戸) ぼろぎクト命名シタモノト同一ト解ツタガ、之ハ北米ノ植物デ米名ヲ Fireweed ト云フ。然シテ ASA GRAY ノ Manual of the Botany ガ與フル説明ニ依レバ、森林中ノ濕地ニ生ジ野火ノ跡トカ、伐採地ニ出ルノデ fireweed ト云フ由、尙本邦ニ於ケル既知ノ產地ハ上記三河ノ段戸山ノ外、東京科學博物館ニハ奄美大島カラノ標本ガアリ、マタ昨年長野縣諏訪郡原村ノ小坂忠次郎氏ハ同縣西筑摩郡神坂村デ採集サレテ筆者ニ送ラレタモノガ北村氏ニヨリ鑑定サレテ今東大腊葉室ニ藏サレテ居ル。何故コンナ外來品ガ山奥ニバカリ發見サレルノカ疑問デアアル。丹澤山中デハ今ノ所其數極メテ少ナイカラ近年入込ンダモノデアラウ。たけださうトハ冠毛ガ白ク葉ガ披針形、狹脚デ邊緣ニ微齒アルモ缺裂シナイノデ區別デキル。

尙玄倉部落ノ東方約 2,000 米突附近ノ徑傍ノ崖ニこがねしだガアツタガ、私ノ知ツ



第 1 圖 だんどぼろぎク

Erechtites hieracifolia (L.) RAF. (×2/5)
BRITTON & BROWN 北米植物志ニヨル



第 2 圖 相州足柄上郡寄 木村杉澤ニテ
採集セルだんどぼろきく（東大標本）

Erechites hieracifolia (L.) RAF. found
in Prov. Sagami.

カンナワ

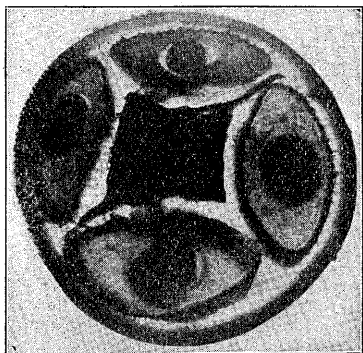
神繩玄倉間ニハおほばやしやぶしガ見受ケラレルガ本來自生シテキタモノカ
土砂扞止ノ 目的デ持込マレタカ？ デアル。マタ前記杉澤堰堤下ノ崖ニはちじ
ようはぐま（伊藤洋氏ニヨル）ガアツタガ、山中珍ラシイ事實デアツタ。マタ
玄倉ノ上方ニハ一種葉裏有毛ノめだけ屬ノ竹ガアツタガ極メテ難物デアル。

2) おほばこノ話

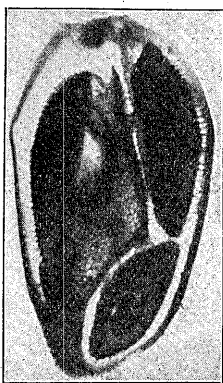
邦内ヲ通ジテ隨處ニ驍産スル路傍ノ雜草デ、其全草ガ民間ニ於テ多量（刈米、
木村兩氏ニ依レバ昭和 8 年ノ年産額 9,676 匁 1,263 圓）ニ使用サレルおほばこ
ノ學名ハ THUNBERG ガ *Flora japonica* = *Plantago major* L. トシテ歐洲産ノ
モノト共同ノ學名ヲ使用シタ以來 *P. asiatica* L. ガ用ヒラレ（例：FRANCHET
& SAVATIER, 小泉源一、原寛）或ハソレニ沿源スル *P. major* L. var. *asiatica*
DECNE モ用ヒラレ、殊ニ最近小泉氏ガ *Floræ Symbolæ Orientali-Asiaticæ*
(1930) p. 19 デ、又原寛氏ガ植物學雜誌 LI, p. 639 デ *P. asiatica* (KOMAROV

テ居ル限リ丹澤山中デハ珍シイノミナラ
ズ或ハ初發見カモ知レナイ。マタ此ノ邊
ニハ至ル處ニいはしやじんガ相當ニアル。
此ノ草ノ寫眞ハ本誌 V 卷 6 號口繪
ニ載ツテ居ルカラ略スコトニスルガ、序
ニ此ノ草ノ和名ニツキ一言スル。即チ發
見者デアル武田久吉氏ハいはつりがねさ
うナル名稱ヲ用ヒテ居ルコトハ植物學雜
誌 XXVII 卷 (1913) p. 469 所載ノ「塔
ヶ嶽、丹澤山附近ノ植物ニ就イテ」及ビ
科學知識 IV 卷 (1914) 5 號ノ「丹澤山塊
略說(三)」ナドデ明カデアル。尤モ此兩
名ハ植物學雜誌 XX 卷 (1906) p. 37 デ同
時ニ公表サレタモノデアルカラ何レヲ用
ヒテモ差支ナイ様ナモノダガ發見者ノ命
名使用スル名ニ統一シタラドンナモノダ
ラウ。マタ前陳セン本誌 V 卷 6 號口繪ノ
説明中ニ牧野先生ハ「大地震ノ時其場所
ガ崩レテ今ハ其處ニ失クナツタ」ト述ベ
ラレタガ今尙同山中ニ失クナツテ居ナイ
ノハ結構ナ事デアル。

氏ハ *P. major* ノ異名トシテ居ル)ヲ使用シテ FRANCHET & SAVATIER = 共鳴シタ = 關ラズ、日本 = 於テモ支那 (劉毅然氏植物分類學・北川政夫氏第一次滿蒙學術調查研究報告第四部四編 (1936) p. 47) = 於テモ *P. major* var. *asiatica* ガ用ヒラレテ居ル現狀 = 鑑ミコノ二者ヲ比較シテ見タ。其一步トシテ *P. major* ノ圖トシテヨク引用サレル LE MAOUT & DECAISNE ノ圖ヲ標準トシテ之ニ比スベキ邦產品 = 基ク圖ヲ手元デ探シテ見タ所、信用出來ルモノトシテ牧野先生ガ増訂草木圖說中第一輯圖版 p. 68 = 増補挿入サレタ圖ヲ得タガ、子房横斷ノ圖ガ得ラレナイノデ自カラ切ツテ見タノガ此ノ寫眞 (第3圖)デアル。トコロデ之デ明カニ違フノデ此度ハ FITCH ノ Illustrations of the British Flora (1916) p. 207 第828 圖ト比較シタガ之モ大同小異デアツタ。ソコデ歐洲產ノモノト日本產ノモノトハ全ク別ノモノデ FR. & SAV., 小泉、原氏等ノ見解ガ甚ダ理由アル様ニ思ハレタガ *P. asiatica* ノ原產地ハ西比利亞及ビ支那ダカラ念ノ爲上述シタ劉氏ノ著



第3圖 おほばこノ果實横斷(擴大)
Transversal section of young fruit
of *Plantago asiatica* L. (enlarged)



第4圖 おほばこ果實縱斷(擴大)

Longitudinal section of
young fruit of *Plantago*
asiatica L. (enlarged)



第5圖 おほばこ花期直後ノ子房縱斷(擴大)

Long. section of ovary of Japanese
Plantago (*P. asiatica* L.) a little after
its flowering stage (enlarged)

書 J.C. LIU: Systematic Botany of the Flowering families in North China (1931) p. 97, fig. 217 ヲ参照シタ所コレハ日本[※]ノモノニ殆ド一致スル様ニ見エタ。サレバ歐洲ノモノト東亞ノモノトハ別物デアルト考ヘラレルノデ更ニ證據ノ擧ラナイ以上 *P. asiatica* L. ヲ用ヒテ惡クナイ様ニ思ハレル。勿論 Species Plantarum デ其著者ガ試ミタ比較ノ程度ナラ變種デモヨイトシテモ子房ノ造作工事が違フコトハソレ以上ニ重視出來ルデアラウ。上掲ノ横斷面寫眞デハ胚珠ガ4個ノ様ニ見エルガ時ニハ劉氏ノ圖ノ様ニ5個現レルコトモアル。元來おほばこノ胚珠ハ6内外ガ普通デアルガ上下ニ石垣上ニ互生シテ居ル結果（第4, 5圖）場所ニヨリ一様デナイノハ當然デアル。若シ私ノ考ガ誤リデナイナラ上記ノ理由デ邦產ノおほばこニ西洋ノモノ、子房横斷圖ヲ利用スルコトハ遠慮スベキデアルガ、是非共西洋ノ圖ヲ用ヒタケレバ寧ロ種類ハ別ダガ *P. media* ノ子房ノ圖ノ方ガ胡麻化シガキクデアロウ。冗談ハ別トシテ邦產おほばこノ子房ノ解剖圖ハ本田博士ノ植物分類學實驗法ノ圖ガ唯一ノ國產ノ圖デアラウ。ソレカラ上記 MAOUT & DECAINE ノ圖ト HARMS & EICHLER ノ圖トヲ ENGLER ガ Syllabus der Pflanzenfamilien ニ併用シテ居ルガ、2 者ハ相當異フ様ダガドンナモノダラウ（勿論日本ノ本ニモ相當ナノガアルガ、コ、デハ大目ニ見テオク）。更ニ此圖ヲ前記 FITCH ニ比較スルト又違フ、即チ胚ノ子葉ガ對向スルコトヲ示ス境界線ガ前2者ニ於テハ子房ノ中心カラ放射狀ニ出テ居ルガ FITCH ノ圖デハ圓周狀ヲ呈シテ居ル、然シテ邦產ノモノヲ見タ結果ヤ劉氏ノ圖カラ判ズレバ余ハ FITCH ニ左袒スルモノデアル。尙劉氏ノハ原圖デアル點ガウレシイ。從來支那デ刊行スルモノノ内ニハ牧野先生ヤ寺崎留吉氏ノ圖ヲ其儘用ヒテ支那產植物ノ圖デアルト公言シテ居ルノガアルノデ、余ハ劉氏ノ圖ヲ特ニ喜ブモノデアル。

3) 紫草茸追加

此ノ問題ニ關シ本誌第 XV 卷 8 月號ニ愚見ヲ開陳シ置キタルトコロ、既ニ藥學雜誌第 57 卷 (1932) p. 363 ニ藤田直市、吉田裕兩氏共著「紫根ノ剖見」ナル論文アリデ既ニ解決済ナルコト判明セリ依テ之ヲ報ズ。

4) はままつな

余ハ數年間ハはままつなヲ連續栽培シテ居ルガ夏期其生活旺盛ナル時期ニ於テハ他物ノ接觸ニ感應シテ枝條先端部ノ葉ガ起立運動ヲナスヲ認メタ。其運動ハ極メテ緩慢ニシテ約 15 分ヲ要シタ。

5) まねきぐさ三浦半島ニ絶エントス

分布上意外ナコトデアルガ、相州三浦郡田浦町木古庭ノ溪谷ニ本植物ノ小群

落ヲ藏スル地點アリテ靱山泰一氏ノ發見ニカ、レリ。然ルニ本年9月17日此處ヲ訪ネタル所、杉林伐採セラレ日光ノ直射ニヨリ地上乾燥シ著シク生活ニ不適ナル環境ガ實現シツ、アレバ近く其絶滅ヲ豫期セザルヲ得ザル事態ニ直面シツツアリ。此外關東地方ニ於テハ武州武甲山ノ周圍ニ其自生ヲ見ルニ過ギズ。

6) じんじさうノ根莖

じんじさうノ根莖ハ極メテ短イト云ハレテ居ルガ往年武州伊豆ヶ岳ニテ採集セルモノニツキ檢セシニ約6cmヲ算シ兩側假軸性ニ分岐スルモノ、如ク且ツ1ヶ年ニ約1cm發育セル證據ノ殘レルヲ見タ。

7) 甲州ノ下部^{シモベ}ニ浴シテ

甲州ノ下部ハ其溫泉即チ冷泉デ名高イ。西八代郡ニ屬シ身延線^{シモベ}下部驛附近デ富士川ニ注グ湯川ニ沿フ一部落デアル。余ハ本年七月入浴地ヲ中心ニ附近ヲ覗イタノデアルガみやまなでしこ (*Dianthus shinaneusis* MAKINO) トつるたて (*Bilderdykia dumetorum* DUMORITIER) ガ路傍デ特ニ目ニツク在籍者デ、東京人トシテハ眼ヲ丸クセズニハ手ヲ出セナイ存在デアツタ。特ニ富士川トカ安倍川トカ天龍川トカノ上流デハ何人モみやまなでしこヲ賞セズニハ居ラレナイ。

下部デハ湯本ホテル裏ノ權現祠ノアル小丘ニ登ツテ見タトゴロ、ひめかなわらび、はかたしだノ様ナ暖地ニ縁ノアルモノニ出會ツタ。ソレカラムちつゝじトおほつぐらふじ、ざいふりぼく、こばのとねりコナドラ見タ。此處デ特筆スベキハかんあふひノ一種デ前川文夫氏ニ依レバかぎばかんあふひ (*Heterotropa curvistigma* F. MAEKAWA) デアツテ、東大標本ニヨル既知ノ產地ハ遠州秋葉山(清水傳吉氏 X, 1929)、同周智郡天方村(渡邊清彦氏 I, IV, 1938)ノ二個所デアル。然ルニ今之ガ甲州ニ産スルコトノ明カニナツタコトト、甲州デ始メテノかんあふひ屬植物デアルコトニ就テハ前川君モ興味ヲ感ジツ、應召征途ニ就カレタ。余ノ採品ニハ雲紋アリ白脈アリテ葉ノ模様ハ一様デナク、且ツ花ナキモノノミデアツタコトヲ斷ツテオク。尙本品ノ基準標本ハ前記清水傳吉氏ノ標本デアル。

追記 段戸ぼろぎクハ杉本順一氏ニヨレバ静岡縣下ノ山地各所ニ、中村守一氏ニヨレバ武州野猿峠、相州湯ヶ原ノ伊豆側、檜山庫三氏ニヨレバ相州箱根神山々腹ニモアルト云フ。余モ其後湯ヶ原ノ前記個所デ得タ。